



安曇野市

第17号

農業委員会だより

写真の記事

明科上押野地区の天王原の再生農地より北アルプス有明山方面を望む



● 主な内容 ●

明科地域荒廃農地 再生事業への取り組み……	2～4
旬の一句・一首……	4
平成25年度 地域農業振興等功労者表彰……	5
がんばる農業者……	6～7
おふくろの味……	8

農政の動き

会長 板花 守夫

政府は農林水産業・地域の活力創造プランのもと本年を攻めの農業政策によるラストチャンスと位置づけ、「経営安定対策の米政策見直し」、「遊休農地対策の強化による農地の貸し借り」、新しい仕組みづくりの「農地中間管理機構の創設」や農業、農業者を支える「日本型直接支払制度による多面的機能を有する農地維持支払」等、新しい道を切り開き、将来にわたって守るべき農地と農村地域を次世代に引き継いでいくとともに農業の成長産業化を実現する必要があります。

また、先般政府の規制改革会議による農業改革に向けたさらなる課題を克服するための農業の競争力強化や魅力ある農業を創り出す成長産業にするため、既存農業者をはじめ新規参入者、各種農業団体等の見直しや企業等に新しい道を積極的に切り開いていくと提言しております。

しかし、政策や提言には地域に密着し、人と農地を再点検し、現場に根差した取り組みが必要で、そういった取り組みからの政策、提言がされることを心より期待します。

発行日/平成26年7月2日
編集と発行/安曇野市農業委員会
安曇野市三郷明盛4810番1
tel0263(77)3111
農業委員会事務局ホームページアドレス
<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>
申請書、届書のダウンロードができます。

明科地域荒廃農地再生事業への取り組み 天王原プロジェクトの始動

明科地域委員会

はじめに・・・問題意識

現 在わが国の農業をめぐる環境は大きく変化しています。農業の多面的機能が再認識されている中で、全国的に広がっている荒廃農地の解消問題が大きな課題となっています。荒廃農地の広がりには豪雨災害、有害鳥獣被害を誘発する要因にもなっているため早期の対策が求められています。

私たちの住む安曇野市についても例外ではありません。昨年の調査によると、その面積は安曇野市全体で、山林原野化した農地と荒廃農地として挙げられている農地を合わせると、およそ390ヘクタールに及びます。とりわけ、明科地域ではそのうちの61パーセント、240ヘクタールを占めています。

こ のような現状の中、当明科地域委員会では数年前からこの荒廃農地解消問題に取り組みようと検討を重ねてきました。問題の大きさと深刻さを思うとき、多くの困難が伴うことが予想されましたが、荒廃農地を少しでも解消するため、とにかく何とか手を打つべきではないか、という思いで、昨年の夏以降具体的な活動に着手しました。



荒廃し山林原野化した農地

事業の概要

事 業の経済的な裏付けは国の「耕作放棄地再生利用交付金」制度を利用して進めることにしました。手続きなど細部にわたる安曇野市農林部の支援をいただくことになりました。

は明科地域全体の荒廃農地対策事業を受け持つ組織として、再生活動を継続的に進めるため、モデル事業実施地区だけでなく、明科地域の他の地区へも事業を広げていくことを念頭に置き、地区ごとの活動チームを作っていくと考えられています。

モ デル事業の実施場所の選定では、明科地域内で数箇所の候補地を検討しました。最初に取り組むということもあり、国の補助事業の要件を満たし、耕作者にとって魅力的であり、かつ、農業を営む上で将来性も見込まれるということから、上押野地域の天王原をモデル地区として手がけることになりました。天王原は池田町に隣接する安曇野市



耕作希望者説明会の様子

の東山の中腹に位置し、かつて一面に桑園が広がっていました。北アルプスを背景に安曇野市全体を眺望できるとも景観の良い場所です。面積は全体で約20ヘクタールですが、今回は北端の65アールを対象とすることにしました。

対象農地の地権者の方々の協力、地区の役員、区民のみなさんの同意を得るため、数度の説明会を開催し基本的な合意をいただくことができました。説明会などの中では多くの方々の賛同と応援の声を聞くことができました。改めて私たちが行おうとするこの必要性と責任の重大さを痛感しました。

再生作業の実施

再 生作業は12月中旬から着手しました。対象農地の現状は、立木とツルに覆われ原野と見間違ふような状態です。第一段階は、立木を切倒し、玉切り、集積する作業です。次に、伐採した立木の一部は薪として希望される方が搬出されましたが、枝葉や薪として利用できない伐採木は機械を利用しチップにして畑に鋤き込みました。

次

は伐採木の根を抜く作業です。大きな切り株は重機で取り除きましたが、残った細かい根やツルもできるだけ排除しなければなりません。そこで、地権者、守る会の会員、安曇野市の農業委員の方々に声をかけ、多くのみなさんの協力を得てその作業を行いました。その結果、大半の木片、根を取り除

補助事業の趣旨としては、耕作者が自らの手で再生作業を行うことになっていきますが、農業をめぐる困難な現状では手を挙げる耕作者を待っていることはできません。そこで、私たち農業委員自らが、積極的に再生モデル事業を立ち上げ、再生作業の実施と再生農地で耕作する担い手を募るといふ、二つの目標を掲げてスタートしました。

ま ずは事業を進めるための組織、「明科地域の農業を守る会」を立ち上げました。「守る会」は安曇野市農業委員会の明科地域委員会が中心となり、地域において農業振興に取り組んでいる行政や団体のメンバーを会員として構成されています。「守る会」



切り倒した木の抜根作業の様子



伐採した樹木の片づけの様子

き、3月末にはトラクターで起こして畑として耕作できる状態にして再生作業を終わらせることができました。

耕作者の決定

再生作業と並行して耕作者の募集を行いました。募集の範囲は当面明科地域の個人、団体ということにさせていただきました。

公募にあたっては、希望者から経営計画書等を提出していただき、県・JAの協力を得て専門家を交えた審査会を開催しました。

審

査には耕作者の組織、資金計画、栽培作物等を、実現の可能性、将来性はもちろん、地元とのコミュニケーションの取り方、環境への配慮も含めています。特に栽培

平成 25 年度松塩筑安曇農業委員会協議会

地域農業振興等功労者表彰

平成 26 年 2 月 19 日に、松本合同庁舎において平成 25 年度地域農業振興等功績者表彰式が開催され、穂高有明の「富田営農組合」と三郷温の「中村元一」さんが表彰されました。

両者のますますのご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。

とみたえいのうくみあい 富田営農組合 (穂高有明)

平成 18 年の品目横断的経営安定対策加入時に、今後の農業経営はどうあるべきか、高齢化が進む中で、効率的な農業経営の実現並びに農用地の利用集積を図ることに賛同した 58 名の組合員によって設立した。

現在は、農事組合法人富田生産組合が富田営農組合の組合員として利用権の設定、農作業全般の受託作業を行っており、地域農業の担い手として、地域の農業の維持及び発展に寄与している。



受賞のことば

この度は協議会の推薦を受け、富田営農組合に地域農業振興功労者表彰をいただき、厚くお礼申し上げます。平成 18 年度に国の農政転換があり、穂高有明（富田、嵩下、耳塚）地区でも農業の高齢化対策、効率的な農業経営の実現及び農用地の利用集積を図るため、平成 18 年 11 月に富田営農組合を設立しました。

平成 25 年度末には組合員 64 名、組合加入台帳面積は 91.2ha となっており、作付内容は、水稲が 52.8ha、転作作物として麦・大豆・そば・米粉・WCS で 30.6ha と設立当初の目標を大きく上回ることができました。

これからの重要課題は、富田営農組合をできるだけ早く法人化し、経営規模の拡大や機械・施設整備に係る有利な支援制度や税制・金融支援などを受けることができる組織にしたいと考えております。それによって信頼ある組織として地域との協同により地域の農業を守るとともに農業の後継者を育て上げることができると信じております。

富田営農組合 組合長 金盛 啓展

なかむら もといち 中村 元一さん (三郷温)

昭和 35 年梓農協への奉職を機に、りんご東北 7 号（のちにふじと命名）の優秀性に着眼し、梓、温地区への導入に努め、りんご高接ぎの一举更新技術の確立と普及を図った。

昭和 50 年頃より、わい化栽培の導入に努め、M9 台木の中間台方式による栽培方式技術確立を図った事により安曇野のりんごを県下のトップクラスの産地とした立役者である。



受賞のことば

この度は受賞の栄誉を受け、光栄に思います。ありがとうございます。私は今 85 歳になりました。年々体力も気力も衰えてきています。

思えば高校を卒業してからりんご作りをはじめ、あづみ農協勤務も行い、合わせると 70 年近い年月をりんご栽培に費やしてきました。

今でも毎年「今年こそは最高のりんごを作ろぞ」と春を迎えています。以前音楽の世界では一つの曲を仕上げるのに 500 回練習してやっと自分のものになることを聞きました。それを考えると私にはわずか 70 回の経験しかありません。人生とはあまりに短く、もっともって元気ですりんごを作りたいと思うのですが、残された時間は限られています。「何もしない人にとっては人生はとて長いけれど、何かをしようと思う人にとって人生はとて短い」と聞いたことがあります。私もこれからまだまだ頑張るつもりです。私より若い皆さんはぜひ、私以上に頑張って農業に励んでください。

中村 元一

作物については、地域の環境・景観の維持についてや将来的に営農活動を持続的に維持できるものかどうかという視点で慎重に審査しました。複数の個人・団体の方が応募されましたが、その中からひとつに絞り込み、最終面談で意思確認を行いました。

審査会の結果を踏まえ、「守る会」で正式決定し、再生後の営農活動に進めていただくことになりました。

結び・今後の課題と展望

このように、昨年度は地権者をはじめ、地域のみなさんの協力や多くの方の支援を得ることができて当初の目標を達成することができました。



守る会会員等による細かい根の取り除き作業



作業が終了し以前の姿を取り戻した農地

ことができました。

しかし、反省点、課題も沢山あります。中でも、地域のみなさんとの交流を通じて、地区固有の問題への対応、防災対策を含めた将来的な天王原全体の再生ビジョンを作り上げ、より具体的に取り組むことが今後の大きな課題であると考えています。

私 たちはこれまでの経験を生かし、今年度からも隣接する荒廃農地の再生事業を継続する計画です。そして、天王原地区にとどまらず、遊休荒廃農地問題を抱えている他の地区へ拡大していくことも次の課題です。

この活動が次世代に引き継ぐ営農活動の懸

旬の一句・一首

時超えて
甦らせむ 桑の畑
開く未来に
畦道の春
明科 青木 武良委員

息止めて
霜注意報に集中す
稚苗千枚
あずかりおれば
堀金 一志みゆきさん

しなやかと
思いし指の 節高く
農に生く我
早や六十六
三郷 中田 愛子さん

代おえて
あぜにひしめく
蛙かな
穂高 藤原 正三委員



け橋となることができればと思います。今は小さな一歩ですが、私たちの試みが、将来への大きな飛躍へつながっていくことを願っています。

がんばる農業者

私 の農業は、施設園芸を中心とした付加価値農業です。トマトの施設栽培を始めたのが二十年前、十年後に専業農家として歩みだしました。専業農家（主に稲作）の長男として生まれ、南安曇農業高校、近畿大学農学部へ進学、しかし専攻は農業とあまり関係のない食品栄養学科に進みました。

卒 業後は「食」に関連した仕事ひとすじで現在に至っています。私が幸運だったと思うことは、素材の個性を引き出し、それを磨き上げ、質の高い商品としてお客様に提供する。という経験を積んできたことです。

ト マトの商品名は、「マジで甘いトマト」、キャッチフレーズは「甘いものがながてな人は買わないで！」その経験がなければこの商品は生まれるこ



まるやま やすよし
丸山 保義さん (60)
(豊科高家地区)

経営内容

- ミニトマトの温室栽培
 - ・面積 420坪で3,000本を栽培 (9月より翌年7月まで出荷)
 - ・商品名 マジで甘いトマト
 - ・販売及び出荷数量
スーパーの産直 県内21店舗……200gカップで7万個
 - レストラン7店舗……1,000kg直売……500kg
- ブルーベリー
 - ・面積 25aで400本
 - ・販売及び数量 500kg～800kg (年により変動)
 - ・販売先 スーパーへの産直及び直売
- 農業従事者 夫婦2人



とはありませんでした。おかげさまで業績は順調に推移しています。私の目指す農業経営は規模の拡大ではなく、質の充実に図り継続することによって、小規模農家ならではの個性が発揮できる農業です。

がんばる農業者

嫌 いな野菜ワースト3に入る野菜「セロリ」。私はその農家の二代目として平成25年から就農しました。まだ一年半足らずと駆け出しな私ですが、セロリ歴約30年の両親の指導を受けつつ、日々精進しています。

就農するまでは普通の会社員でしたが、東日本大震災により勤務先の業績が悪化し希望退職に手を挙げて転職することにしました。

求 職中に両親の手伝いで畑での作業をする日々が続き、私の中で自然も力仕事を代わると喜んでくれたことを見て、自然な流れで農家への道を選びました。農作業を通じて両親の作り続けてきたセロリや米が美味しいこと、それを自分でも作れるようになりたいという思



もりしま ひろやす
森島 宏泰さん (37)
(穂高有明地区)

- 経営面積……………420 a
- セロリ……………45 a
- 水稲……………260 a
- 麦・大豆(転作) ……90 a
- その他野菜……………25 a



ま た幸いな事に、松本洋菜のセロリ後継者会へ誘っていただき、年齢いもありません。ところが私、「鉄」は何とかわかって「ジョレン」って何？という具合に農業に関して無知なことから、教える両親もなかなか苦労が絶えず大変だと思えます。それでも自分なりに頑張っている、温かい目で見守ってほしいと思います。

今 年の1月、我が家にNHK「鶴瓶の家族に乾杯」のロケで、嵐の櫻井翔さんが訪れ、4月に放送されました。その中で「農家で頑張る」と全国に発言した手前、前に進むのみです。セロリの粕漬を櫻井さんが「美味しい」とおっしゃってくださいのように、漬物でも、生のままでも皆様が美味しいと言ってくれるような「好きな野菜 セロリ」を目指してこれから一生を懸けて作り続けていければと思います。



明日の農業を支えている農家のみなさん

農業者年金に加入しませんか

担い手積立年金



- * 終身年金で 80 歳までの保証つき
- * 保険料は全額、社会保険料控除
- * 担い手を対象に保険料の国庫補助
- * 保険料月額は 2 万円から自由に選択
- * 政策支援加入は保険料の国庫補助あり

おふくろの味



長瀬ひさ美委員

- ⑧ 色がきれいになったら 50g に計り、形を整えて片栗粉をつける
- ⑦ この時食紅を適量入れる（薄いピンク色になる）
- ⑥ まとまったら塩と混ぜた砂糖を 3 回くらいに入れてよく練る

- ⑤ ポウルに蒸した米粉を入れてまとまるまでよく練る
- ④ 蒸しあがったらそのまま水の中にさっと入れる（こうすることですぐに硬くならず翌日までもち）
- ③ 練った米粉を 6 等分位に分けて蒸し器で 15 分蒸す
- ② 米粉を分量のお湯で練る
- ① お湯を沸かす

作り方

- 材料**
- 米粉…500g
 - 砂糖…250g
 - お湯…400g
 - 塩…小さじ1
 - 片栗粉…適量
 - 食紅…適量

すあま

全国農業新聞



発行日・購読料

毎週金曜日発行
月 600 円「送料、税込み」

申し込み方法

農業委員会で随時受付を行っていますので、問い合わせてください。

編集後記

富岡製糸場周辺の絹産業関連施設が世界遺産登録の見込みです。

養蚕最盛期には明科地域の天王原には 20 ヘクタールの桑園がありました。今日では人の手が入らず原野化し、かつての面影をとどめていません。

昨年、この地の 65 アールが再生され、今後さらなる再生活動が期待されます。

天王原の西方眼下には安曇野の田園地帯が南へと広がり、様々な農業生産が営まれています。嫌いな野菜ワースト 3 の野菜作りの二代目を目指す者、質の高い農産物生産を目指す者、りんご作り 70 年、まだまだ今年こそともしっかりと良い物の生産を目指す者。

農業は毎年毎年が一年生。
がんばれ農業者

編集委員 丸山 栄一